

翻訳にあたってのヒント

その 35

Standard

過去に基準の話題を取り上げたことがあるが、今回はその中でも”standard”に触れてみたい。このページの読者諸氏は、standard の元々の意味が「旗」であることをご存知だろうか？その証拠に、英英辞典に載っているその数ある定義の中から、一部を拾ってみることにしよう。

[1] (n.) A flag; colors; a banner; especially, a national or other ensign.

Etymology: Middle English, from Anglo-French *estandard* banner, standard, of Germanic origin; akin to Old English *standan* to stand and probably to Old High German *hart* hard (Date:12th century)

[2] a flag indicating the presence of a sovereign or public official.

[3] a flag, emblematic figure, or other object raised on a pole to indicate the rallying point of an army, fleet, etc.

[4] (Mil.) a. any of various military or naval flags.

旗というからには、そこには人が集い、一致団結し、その旗印の下で統率される。ここから抛り所、すなわち標準（規格）という語義が生じた。

軍事用語に限らず、今でも「軍旗、隊旗、連隊旗(正確に訳すと、**the regimental standard**)、国旗」の意味で使われている。また”color(s)”も「軍旗、隊旗、国旗」の意味で使われるが、その意味合いはちょっと違って来る。厳密に言うと、「車載・艦載・騎乗の旗」が”standard”であるのに対して、”color(s)”のほうは「下車、徒歩時の旗」を指すのである。

こんな訳だから、この英語が出てきたら、場合によってはそうした意味で使われていることがあるので注意が必要だ。こういった自分で知っているつもりになっている英単語を「何だ、低レベルな英語だ、簡単、簡単」などという知ったかぶりは禁物である。難しい英語、あまり見かけない英語は注意して辞書を引くが、シンプルな英語になると辞書を引かず、生半可な知識で翻訳してしまうという態度ではいけないし、これは自分自身に対する訓辞でもある。さらに、専門語になるほど英語（極めてシンプルなものが多い）と日本語（字面を見ると極めて難解なものが多い）の乖離率が高くなるという問題もある。

2001年9月11日にニューヨークとワシントンで起こった同時多発テロで、小泉総理がアーミテージ米国国務副長官から駐米日本大使を通じて突きつけられた要求である”show the flag”の和訳があれこれ取り沙汰されたこともあったが、あれも日本側が早合点せず、この句に「旗幟（旗印・旗標 [はたじるし]=行動の目標となる主義・主張)を鮮明にする」という意味があるだけでなく、「(お義理で) ちょっと顔をだす、外国の港を正式訪問する、プレゼンスを示す、自国の立場・見解・要求・利益を表明する」といったどれがどれだか

捉え所がない意味もあるように、その真意が曖昧であることを聞き質していれば、決してあのような結末（「旗を示せ＝自衛隊を出動させろ→自衛隊の後方支援にいたった」）にはならなかったはずである。が、それと同時に、アメリカ側も、英語を母国語としない日本に対してあのような不明瞭な英語を公式の場で発言したことも問題であった。

以下は、研究社・リーダーズ英和辞典から：

■ standard (研究社、リーダーズ英和辞典)；旗、(主力部隊を示す) 軍旗、(特に) 騎兵連隊旗、[紋章] (国王・王族などの) 長旗、[植物] (エンドウなどの花の) 旗弁 (きべん)：
the Royal Standard 国王旗 / join the standard of ... ~の旗下にはせ参ずる。 / march under the standard of ... [fig] ~の軍に加わる。 / raise the standard of revolt (free trade) 叛旗 (自由貿易の旗) を翻す。

これにて 35 回目終了